



Le Vert
ル・ベール山の会

山との長が〜いお付き合い

学生時代はテニスをやっていましたが、時間があればロックガーデンや六甲の麓近辺を遊びでうろついていました。社会人になって東京時代に会社に山好きの人がいて、奥多摩や丹沢にはよく連れて行ってもらいました。ニッカポッカにキャラバンシューズ、ザックはもらいもののキスリング。その頃は今の縦型ザック（アタックザックと呼んでいた）が最先端でカッコよく、新宿の石井スポーツにザックや山用品をよく買いに行ったものです。

その後だんだんと山歩きが面白くなり、グループで行ったり単独で行ったり。東京は南、北アルプス、八ヶ岳へ行くには地の利がよく、朝一の JR 特急あずさで行けばその日のうちに頂上に立てるコースもあります。

最初の本格的（2-3000m 級という意味です）登山は南アルプスの甲斐駒ヶ岳。仙水峠の仙水小屋に泊まりましたが平屋で土間の周りの板敷に寝て横を向けば人の顔、トイレはおつりがくるタイプ、今でいうカルチャーショック！もちろん食事はカレー単品。

その後南アルプスは甲斐駒ヶ岳一座だけで北アルプス、八ヶ岳に多く登りました。

一番感激したのは黒部五郎岳のカールです。その頃小生は大阪勤務、山友は東京勤務でしたので三俣蓮華岳の頂上に〇月〇日〇時頃集合と打ち合わせ、小生は折立（富山県）から入りました。太郎平小屋で一泊し黒部五郎岳へ。カールと言うのは大昔の氷河の削り跡ですが、雪解け水が沢となって流れ、高山植物が咲き誇り、後ろを振り返れば青空をバックに残雪を抱いた黒部五郎がそびえ、眼下には今宵の宿、黒部五郎小屋が小さく見えている！（注：30年前なので記憶が誇大に装飾されているかもしれませんがご容赦ください）

三俣蓮華頂上で山友とうまく合流でき、双六小屋から新穂高温泉へ下山、一泊し露天風呂で山旅の疲れを癒しました。

若い頃はいろいろと高山に登りましたが危険に鈍感というか、槍穂の大キレット、剣のカニのヨコバイなど当時は緊張したのですが、あまり恐怖の記憶として残っておらず、むしろ今の六甲の沢や岩稜の方が「3点確保で慎重に登らねば」と自分に言い聞かせていますね。人間先が短くなるほど慎重になるのでしょうか？ 運転も慎重になりました。

山の記録を見ていると98年に東北の安達太良山に行って、帰りに会社先輩宅に一泊しました。この先輩はユニークな方で、会社を定年前に退職し福島の山林を購入、そこに家を建てられました。家の庭には沢が流れ、それを大鉢で受けスイカ、トマト、缶ビールなどを冷やしていました。行ったのが真夏なので、庭の木陰でそれをいただくと天国でしたね。

これ以降山歩きはブランクとなり、退職後ル・ベールに入会し山歩き再開です。

六甲のいいところは電車の駅から歩いて登れるところです。他の山々は電車を降りてバスで登山口まで行くのが多いですね。また植物園も多く、甲山森林公園、北山植物園、高山植物園、神戸森林植物園、須磨離宮公園など四季の花々が楽しめます。

今は自粛山行ですが、早く元に戻ってみんなで山々の自然を思う存分楽しみたいものです。

三俣蓮華あたり（？）から左に槍穂、右は笠ヶ岳？



白馬乗鞍から白馬大池、左に小蓮華山



槍沢の紅葉

